

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500099		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモやよい		
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地		
自己評価作成日	令和2年5月27日	評価結果市町村受理日	令和2年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=4490500099-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古府国巻番館 1F
訪問調査日	令和2年7月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は山や田に囲まれており、自然豊かな四季の風景を感じることができます。入居者様は一人ひとり自分の生活リズムでゆっくりと過ごされて、傍で職員が添っています。現在、入居者様の高齢化や重度化などさまざまな課題が生じています。入居者様が心身共に健康であるため、ご家族が安心を得るために、私達には何が出来るかを話し合い考えながら、事業所としてできる限りのことをするべく日々の介護に取り組んでいます。同じ時間を過ごす中で、喜怒哀楽を共にしながら入居者様が穏やかに暮らしていけるような関わりを持ち、また地域住民の一員として、地域活動や人とのふれあいを大切にしていきたいです。

当施設は、周辺に田園風景が広がり、自然環境に恵まれた閑静な場所に位置し、ゆっくりとした時間の中でくつろげる工夫が伺えます。人家が少ないですが地域との関係性に配慮し、可能な限り地元のお祭りや行事に参加出来るよう支援に取り組み、入居者との馴染みの関係が継続できる支援がなされています。職員の積極的な利用者との関わりの中で、信頼関係を創り出す態度が伺え、利用者・家族が安心される施設となっています。職員は施設内・外の研修に積極的に参加し、身体拘束禁止・ロックスピーチ対応など資質向上に取り組まれ、ケアカンファレンス等で職員間の交流・共有に努め、利用者にとって本意となる支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関と事務室に掲示しており、毎朝朝礼時に職員間で復唱しています。職員会議等で理念の大切さを伝え実践に努めています。	地域密着型サービスの役割を理解され、言葉かけや利用者とのコミュニケーションなど、理念に沿った支援がなされ、職員の採用時に理念を説明し、理解が出来るよう対応され、職員の早期退職者が少ない取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方とあいさつをしたりします。駐車場で子供達や親子が遊ぶ姿がみられます。	重度化となる状況の中ですが、地域で開催されるお祭りや盆踊り等には、出来るだけ参加できるように取り組まれ、小・中学生が社会福祉協議会等通じ、ボランティアとして施設への訪問など、地域との交流の取り組みがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生がボランティア体験に来てくれた際に話をしたり、面会に見えるご家族から相談を受けたりします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の活動報告や入居者様の様子などを話して参加者と意見を交換しています。	運営推進会議は、年6回定期的に取り組まれ、施設の課題、地域の要望などの意見交換や自己・外部評価・改善点等について、双方向で協議し、改善点については、職員等で共有するなど、運営推進会議を上手に活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険係に制度について尋ねたり、運営推進会議の中で包括支援センターの職員に事業所の取り組みを伝えたり介護保険の情勢を聞いたりしています。	制度の改正や認定更新時には、介護保険係に出向き利用者の暮らしぶりや新たなニーズ、介護度等について報告・説明など意見交換の取り組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度身体拘束対策委員会を行い拘束委員を中心に身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束の意味を全職員で共有し、利用者の行動を制限することのないよう配慮されています。また、精神的に追いつめるスピーチロック等の排除にも積極的に取り組まれ、利用者が安心安全な生活が出来る体制に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束対策委員会の中で虐待防止について取り上げ話し合い、職員に周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様があります。保佐人の方と毎月情報交換をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族に契約について説明し、理解していただいて署名押印をお願いします。法改正時には文書で説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。入居者様に日々関わる中で要望を聴いたり、ご家族の面会時に意見や要望を聴いています。	利用者・家族が気軽に意見を言えるよう、面会・家族同士の集まり等を活用し、意見・要望が出された場合、管理者・職員間で協議し改善に取り組む組織が構築され、相談は施設と同様に市町村の窓口等でも出来る事を伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で運営に関する意見や要望を聞き反映できるようにしています。	ミーティング等で、職員目線で感じる支援方法・アイデア等について意見が出されるなど、日常的な関わりの中での取り組みなど、職員の運営への提案が活かされる取り組みが構築されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に立ち寄り職員の勤務状況を把握しています。各自が向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所内で施設内研修を行います。外部の研修の案内を掲示して希望者には勤務を調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会で同業者との交流があり情報を交換したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人と話をし困りごとや要望を傾聴しています。安心感を得られるように言葉かけや接し方を配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族と話をし困りごとや要望を傾聴しています。信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意向を聴いて必要な支援を見極め、事業所としてできる限りの支援ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と同じ時間を過ごす中で喜怒哀楽を共有しています。入居者様の気持ちを考えながら接するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に見えた際、ホールや居室でゆっくりと一緒に過ごしてもらっています。時折間に入り近況を伝えたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の出身地の話を聴いたりします。ドライブで出身地区を走り馴染みの景色を見ながら話が弾みます。	今迄の本人を取り巻く人間関係の把握と共に、知人・友人等への手紙・電話の取り次ぎなど、利用者の意向を尊重し、連絡が絶えない取り組みがなされ、本人を馴染みの職員が継続的に支援できる体制が構築されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や行動、認知症状を把握して入居者様同士が仲良く支えあい、また衝突しないような場面作りに配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族に会った際には、挨拶を交えて話をしたりします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を聴くようにしています。本人の状態によって困難な場合にはご家族に聴いたり職員間で本人本位に検討しています。	利用者が何を望んでいるのか、誰に会いたいのかなど、言葉にしづらいことを日々の行動・表情から感じ取るなど、本人本位の支援がなされ、家族・知人・職員等の関係者で検討・協議される体制に取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族から生活歴やこれまでの経過等を聴いています。入居後も話をしていく中で少しずつ聴いて把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握するようにしています。できることやできないことは日々違うので場面に応じた対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を聴いて介護計画を作り職員間で共有しています。	本人・家族・職員の意向を把握され、本人本位の介護計画が策定され、利用者の入院・退院など状態が変化したときなど、モニタリング等活用し、介護計画の見直しに取り組みがなされています。	利用者が元気になる、状態が良くなるよう、積極的にインフォーマルサポーターを介護計画に位置づけるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はiPadを使っています。また、連絡ノートを利用して入居者様の情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望や要望に応じて事業所として柔軟な支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して入居者様が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるようにしていきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意向を聴いてかかりつけ医を決めています。受診時には必ず同行して主治医とよりよい関係を築き適切な医療が受けられるように努めています。	本人、家族の希望により従来のかかりつけ医を継続出来るよう支援されています。受診に同行出来ない家族には、その日の内に受診結果を報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していません。受診の際病院の看護師に状態を伝えて相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や退院時には病院の連携室と連絡を取り合います。入院中の様子を尋ねたりしながら状態を把握し早期に退院できるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてはご家族の意向を聴いて話し合い、事業所としてできる限りの対応をしています。	重度化、終末期に向けての指針を、本人・家族と話し合っています。その際、本人・家族の意思確認書を作成しています。看取り支援をしています。終末期を迎えた家族の心のケアに配慮し、安心して、その人らしい最期を迎えられるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には全ての職員が対応できるように訓練を重ねていきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行います。地区の方には災害時の協力をお願いしています。また、事業所内で定期的に避難訓練をしています。	年2回の消防署員による避難訓練では、消火器の使用方の講習をしています。定期的に事業所独自の避難訓練をされ、安全に避難できるよう努めています。夜間を想定した訓練を検討しています。	災害時に備え食料の備蓄を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを共有してその人に合った声かけをしています。プライバシーを守り声かけをします。	一人ひとり性格も異なり、日々の状態も変化する中、プライバシーを守り、誇りを損なわない声かけをされています。プライバシー保護や、個人情報漏洩の勉強会を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で意見を聴き自分で決められるような場面の配慮を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを尊重して、気分よく落ち着いて暮らせるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んでもらったり、一緒に選んだりしています。外出する際には着替えて身だしなみに気をつけます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バランスの取れた家庭的な食事を調理しています。食事前に全員で「いただきます」の挨拶をして食べています。時々発声練習をします。	利用者の好みを献立にとり入れるなど、食事を楽しめるよう配慮しています。利用者の嚥下状態に合わせた食事形態で提供しています。年末の餅つきでは利用者が丸めるなど皆さんで楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量、1日の水分量を記録して体調と照らし合わせたりします。咀嚼や嚥下が不十分な入居者様にはミキサー食を提供したり、食べやすい大きさに切るなどしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行います。食物や汚れが残らないよう入居者様に応じた介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて排泄パターンを把握してトイレの声かけを行います。	その人の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄が出来るよう支援しています。夜間オムツ使用の利用者には、その人に合ったパットを使用し、安眠できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後にアクエリアスを飲んでもらったり、ラジオ体操にて体を動かしています。十分な水分摂取を心がけ必要時に薬にて排便を促します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を考慮して入浴します。タイミングよく声かけて気分よく、気持ちよく、安全に入浴できるように努めています。	浴室には段差はなく、手すりが設置され安全に入浴できるよう配慮しています。入浴を拒む利用者には、その日の気分や、状態を見計らいながらタイミングよく声をかけるなど、気持ちよく入浴できるよう支援しています。足浴を行い清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎食後はゆっくりと過ごしてもらい、居室で昼寝をする入居者様もいます。寝具はいつも清潔にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の薬は袋に書いている名前を必ず声に出して呼んで確認し服薬してもらいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折りや洗濯物をたたんでもらったり、ゲームや歌を聴きながら一緒に歌ったりしてレクリエーションを楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度ドライブに出かけています。近所や敷地内を散歩したりして外出の機会をつくるようにしています。	体調に配慮し、遠方への外出は難しいですが、ドライブや季節ごとの外出など、気分転換を図っています。日中は敷地内や、近所を散歩するなど外出の機会をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある際には一緒に買い物に行き物の値段について話をしたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住むご家族からの電話を取り次いで話をしてもらったり、年賀状を書いて掲示しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は毎日の清掃と毎食後に床を拭いて清潔を保つようにしています。四季を感じられるように季節にあった塗り絵をしてもらいホールに掲示しています。	壁面には、利用者と職員と一緒に制作した塗り絵や季節の貼り絵などを掲示しています。共用空間には光が入り、明るく・調理の音や香りが感じられ落ち着いた雰囲気の中でくつろいでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座席には定位置がありソファでの位置もたいてい決まっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドとたんすがありたんすの上や出窓には写真や思い出の品を置いています。季節に合わせて衣替えをしています。	居室はすっきりと整理されています。ベッド周りには動きを妨げるようなものはなく、安全に移乗出来るよう配慮されています。家族からのプレゼントの品や、想いでの写真などが飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況やその時の状態に合わせた声かけをして自分でできることはしていただき様子を見守っています。		